

## 第1回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会（議事録要旨）

開催日時：平成28年7月1日（金）13:30～15:15

開催場所：香南市役所本庁舎3階第4会議室

委員名簿：受田 浩之（委員長）、竹内 淳、北代 正彦、北村 侑、中内 寛、松山 好（欠席）、宮崎 利博、高橋 丈夫（欠席）、小松 健一、中澤 麻友、塩次 加奈子（欠席）、水谷 輝秋、國松 美紀、亀井 秀彦、野中 明和（副委員長）

### ○質疑意見等

#### 【資料1の説明】

委員：資料1で香南市の人口の将来展望として3万人とあるが、人口ビジョンとしてはこれでよいのか。

また、野市の一極集中化が進んでおり、一次産業の後継者不足も目立つ。その点が気になっている。

委員長：人口ビジョンは2060年を見据えて国立社会保障人口問題研究所のシミュレーションとご当地の意欲を勘案しながら「3万人は維持する」という結論で皆さんの合意を得た。人口ビジョンの数値を毎年変えることは適切ではない。もう1点野市の一極集中について、これに関しては人口のシミュレーションを旧町村で計算し、このままでは看過できないという思いを持ち続けて今に至っている。しかし、踏み込んでいくと「じゃあどうしたらいいのか」という極めて難しい問題にはいつてくる。今後は一次産業の拠点整備・担い手の確保等の対策を精査しながら「面的な最適化」をどう考えていくか検討していただきたい。先行事例から学ぶ点が多くある。提起された問題については引き続き議論していく。

#### 【資料2の説明】

委員：資料2-6 三宝山観光拠点化の磨き上げの構想が完成したとあるが、どういう構想なのか。また、タンポポ茶とは。

委員：三宝山の観光拠点化については、現在市民の皆様また見識者の方からいただいた案をもとに、広範囲のターゲットを子供と子育てをしている方々に絞り、自然環境を生かしたアスレチックとそれにまつわる様々な楽しさを与える。という構想のもと、企業として成り立たせていただく方を募集し、決定したら行政（県・市）と企業と地権者の方々に役割分担を決め、基本的には民設民営で新しい観光を作っていく。という構想が完成した。

委員：以前にあった遊園地が潰れた場所をあえて観光拠点にする理由とは？

委員：香南市を一望できるというのが三宝山の第一の売りである。十数年前から行政に働きかけてやっと動き出した。今後、何ができるのかということを見極めたい。まだ、三宝山の観光拠点化については意見を言っているのか？

委員：民設民営を基本としているが、ただただ「来てほしい」というだけではいけない。こんなことが香南市では可能であるのではないかと、このことを専門家の方を交えて香南市はこういうターゲットで、こういう施設ならば一例として可能性があるということで企業の誘致をする。実際に運営する企業が工夫をして集客力のある施設にしていくというのが最終的な目標である。

委員長：タンポポ茶とはカフェインフリーで、コーヒー代替として注目されている。

委員：資料 2-4 で「6 次産業化による新産業の創出」というところで、商品の開発についてヤ・シィパークの方が自分たちで考えたのか、コーディネーターのような方がはいたのか。なぜこれほどの成果（売上金額 51,431 千円）がでてきているのか。

事務局：新商品売上金額の 51,431 千円は平成 31 年度の目標数値であり、これからの取り組みである。

委員：まだ商品化はされていないのか。

事務局：流れとしてはヤ・シィパークの周辺活性化事業の検討会を商工水産課主管でおこなっており、その中でヤ・シィパークの新たな観光の目玉にもなるということで事業の一つとしてでてきている。

委員：レシピ・メニューは固まっている。（氷菓・焼き菓子）

事務局：7 月 23 日から販売開始である。

委員長：この資料では情報が少なすぎる。中身がわからないので、しっかり資料の中で可視化していただきたい。見た人が誰もわからない。

委員：2-4、2-5 について、物部川 DMO 協議会が発足したが、行政ベースの産業振興計画・創生総合戦略と民間ベースの協議会など行政と民間がどのようにコラボしていくのか。

委員長：一体感に少し乏しい部分があるので、産業振興計画の策定の下に部会を作り、そこで民間ベースの方々に協議をしていただき、行政もはいて官民一体化で議論していく。官民一体化する体制として民間ベースの部会が実質化してきた。

委員：若年層の移住促進、出会いの機会づくりについて、県下で開催してるところとタイアップしてはどうか。香南市だけで開催しても効果が少ないのでは。

事務局：県下とのタイアップと香南市としての様々な取り組みの両方をおこなっていかなければならない。移住促進については中央広域（高知市・南国市・香美市・香南市）という形で PR を今後強化していきたい。出会いについては、以前からおこなわれている県の事業もあり、香南市独自でやる事業のほうが利用しやすいということもある。「香南市恋い・めぐりあい応援事業」については、3 件の問い合わせがあり、平成 28 年度から始めたばかりなので今後着実に実績につながればよいと考えている。

委員：困っている人が多い分野だけでなく、少数で困っている分野にも目を向けてほしい。

委員：人生をトータルでサポートするという書き方をしており、資料には明記していないので分かりづらいが、実際に困っている・あるいは必要とするものに行政が積極的に関わりを持ち、支援していこうという計画が人生支援計画となっている。とくに人口増加・出生率増加に大きく寄与するものを基本的に KPI としてあげさせていただきたい。

委員：資料 2-8 保育所の預かり数が平成 31 年度の目標では平成 27 年度実績より下がっているが、子供が減るからでしょうか？

委員長：これは減らそうという目標ではなく、増やしていく途中経過ですすでにクリアした。というもので、情報修正しないと矛盾する。また、表し方で数字は「ある年」だけ出してしまうと難しいので、傾向を把握できるようにグラフ化していくなど工夫をしてもらいたい。

委員：資料 2-8 で野市町地区 3 小学校区のニーズが高いとあるが、野市以外の小学校で子供が減っている。バスで送り迎えするなど分散すべきでは？

委員：野市は宅地を提供していけばまだまだ人口は増える。それを基礎として香南市全体に移住を促進するためにはどうすればよいかというのは大きな課題である。具体的な野市以外の地区でどのように人を移住させ、子育て世帯に住んでいただけるようにするかの仕掛け作りについては、これから検討したい。香南市の児童が少なくなっているのは事実だが、様々な工夫をもって学区を越えても子供たちがいけるようにと作ってはいるが、親のニーズがなければできない。それよりも地域の魅力・学校の魅力を育てることに力をいれて、無理やり分散させるのではなく香南市全体の将来を考えた保・幼・小・中の編成のあり方を含めて考えていこうではないかというのが現在の考えである。

委員：自治会の高齢化が進んでおり、形だけの自治会が増えていくのではないかと。高齢化が進む中ではたして「住民自治」ができるのか。

委員長：集落の中で、若い世代の新たな移住者がはいってくるなど、多様性が増していくきっかけがないと難しい。日本各地で空き家を再利用する取り組みが進んでいて、そこに移住してきた若い家族がまちを変えていくケースがかなり出ている。こういう状況を改善するときに「移住者」が鍵になる。(Uターンも含めて) 移住者をひとつの突破口にするというのは具体的なアイデアとして有り得る。そうしないと高齢化が進んで存続の危機というところに対しては手が打てない。他の部分とどう連携していくのか、災害に強いまちづくりで自主防災だけをどうするかという視点で見えていくと解決策がなかなか見えてこないのではないかと。

委員：空き家対策について、若い世代が山間地に住むとなったときに助成をしてはどうか。

事務局：香南市で今年から実施する施策の中で大きいのが空き家の対策です。今すでに古い空き家はあるものは市が中間保有をする。改修しても使えないような家については取り壊し費用を含む新築資金を補助する、ことなどを考えている。また国の施策として、所得が比較的低い新婚カップルの支援が設けられた、結婚に伴う住居費や引っ越し費用など最高で 18 万円支給(国が 3/4 補助する)するという制度。そういう施策も含めながら香南市においてどういうことができるのか今後研究と検討を重ねたい。しかし人口問題については短期ではなく長期的に見て進めていかなければならない問題である。これは財源も含めて 1、2 年は耐えられるが 10 年、20 年、30 年という長いスパンでおこなっていく場合も考えながら、国・県の施策に対応していくことプラスアルファ香南市で行っていく場合には長期的な財政面も含めて有効な施策を考えていきたい

#### 【参考資料の確認】

委員長：人生支援計画の全体概要図について、すごく分かりやすくまとまっている。市民ひとりひとりのライフステージを中心に市として描いている。ここに産業振興計画を同じ絵の中に重ねる、また総合戦略が重なっていくとどういう風に見えるのか、というのも市民目線で描くとわかりやすくなるし、自分たち(市民)を中心に表現されているので丁寧なのではないかと感じる。

図としては複雑になるかもしれないが、市民を中心に表現するということを工夫するとより市民目線になる。

委員：参考資料①の高齢期に「健康で長生きできる環境づくりの推進」とあるが、健康寿命を延ばすために特定検診の受診率をあげる手立てを考えるべきではないか。

委員長：可能なら委員会の中でもデータで示していただきたい。ある自治体ではKPIの中に健康寿命の延伸をいれたらどうかという話をしたこともある。人口を増やすためには長寿命化すること。平均寿命はもちろんだが仕事を生み出す上では平均寿命ではなくて健康寿命の延伸が重要である。この部分を肝にすえるということを考えていって、もっと若い時期からいかに健康を意識した生活を送るか（食生活など）。といったところを含めて考えていくと受診率も上がる可能性があるのではないか。という話をして自治体に持ちかけてはいるが、健康寿命をKPIに盛り込むのは勇気がいる話で実現していない。細かくデータを見ながら改善をし、あるいは働きかけをできる部分があれば人生支援の中で考えていったらどうか。